

トビウオ通信 (6月号)

http://www2.pref.shimane.jp/suisi/ (TEL 0855-22-1720)

《平成 16 年漁期の底びき網漁業の動向》

小型底びき網 1 種漁業 (かけまわし)

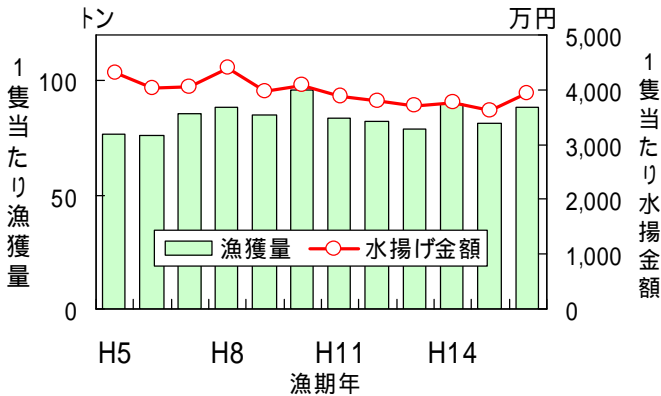


図 1 小型底びき網漁業における 1 隻当たり漁獲量と水揚げ金額の経年変化

1 隻あたり漁獲金額は平年並

島根県の小型底びき網 1 種漁業 (かけまわし) 57 隻*の平成 16 年漁期 (平成 16 年 9 月 1 日 ~ 平成 17 年 5 月 31 日) の総漁獲量は 5,046 トン、総水揚げ金額は 22 億 5,000 万円でした。1 隻あたり漁獲量は 88.5 トンで、平年 (10 年平均) を 4% 上回りましたが、水揚げ金額は 3,947 万円と平年並みになりました。今漁期はエチゼンクラゲの大量来遊等もなく、操業も順調に推移しました。

* 当漁業における島根県全体の操業隻数は 58 隻ですが、統計は 57 隻分の集計です。

カレイ類低調

ソウハチの 1 隻あたり漁獲量は 11.1 トンで、前漁期を 3%、平年を 30% 下回りました。また、ムシガレイの 1 隻あたり漁獲量は 4.9 トンで、平年を 15% 下回りました。一方、近年安定しているヤナギムシガレイの 1 隻あたり漁獲量は平年を 10% 上回る 1.7 トン、メイタガレイの 1 隻あたり漁獲量は平年の 46% に留まり、0.8 トンでした。カレイ類は全体的に低調に推移しました。

イカ類低調

ケンサキイカの 1 隻あたり漁獲量は 2.5 トンで、前漁期の 58%、平年の 75% に留まりました。また、ヤリイカの 1 隻あたり漁獲量は 1.6 トンで、平年の 77% の漁獲に留まりました。

ケンサキイカ、ヤリイカともに低調に推移しました。

キダイ・ハタハタ好調!

ニギスの 1 隻あたり漁獲量は 12.2 トンで、前漁期に引き続き好調に推移しました。キダイの 1 隻あたり漁獲量は 8.4 トンで平年の 1.5 倍、アンコウの 1 隻あたり漁獲量は 6.2 トンで、平年の 1.2 倍の水揚げがあり、近年は高水準で推移しています。また、前漁期低調であったハタハタの 1 隻あたり漁獲量は 5.2 トンで、平年の 2.6 倍の漁獲があり、好調に推移しました。

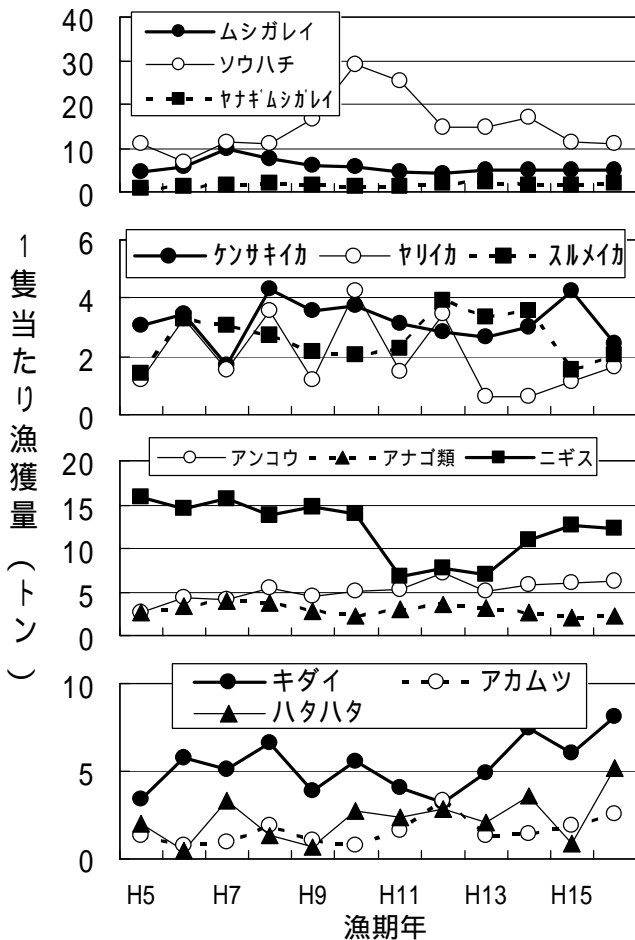


図 2 小型底びき網漁業における主要魚種の動向

沖合底びき網漁業(2そうびき)(県西部)

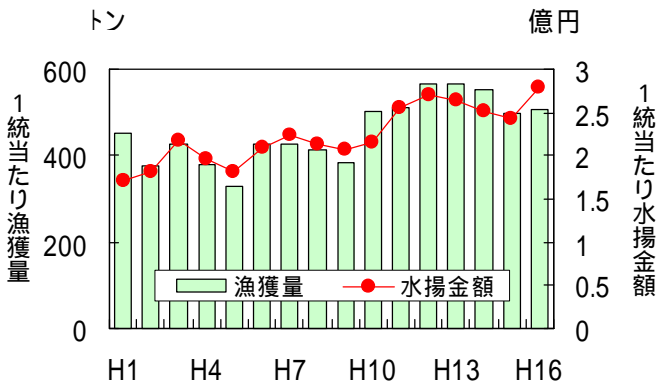


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当たり漁獲量・水揚金額の動向

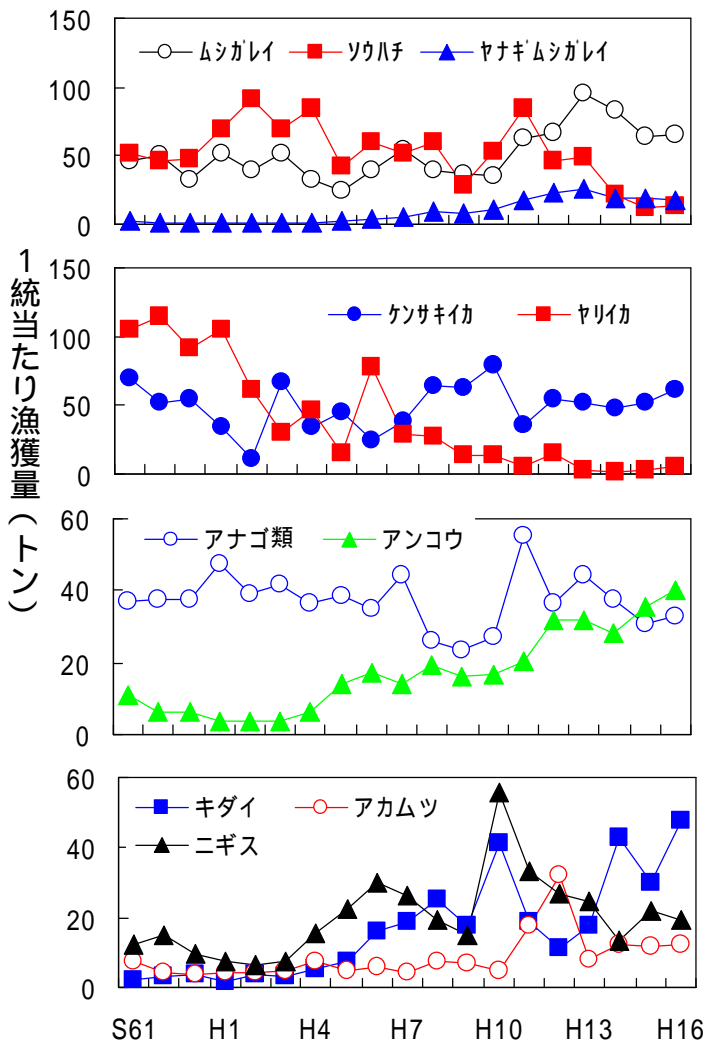


図4 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の動向

1統あたり漁獲金額は近年では最高

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業(操業統数6ヶ統)の平成16年漁期(平成16年8月15日~17年5月31日)の総漁獲量は3,038トン、総水揚金額は16億7000万円でした。また、1統当たりの漁獲量は506トンで、前漁期を1%上回り、ほぼ平年(過去10年平均)並みの水揚げとなりました。水揚金額は2億7,900万円と昭和61年以来では最高の水揚げ金額を記録し、前漁期を15%、平年に対しても19%上回りました。今漁期は、前年のようなエチゼンクラゲの大量来遊のような操業上の障害がなかったことや、平年と比較し魚価が比較的高く推移(前年比13%、平年比14%上回る)したことが要因と考えられます。

カレイ類低調

ムシガレイの1統当たり漁獲量は66トンで、前漁期を3%、平年を20%上回りましたが、小型魚の漁獲が少なく、今後の資源動向に注意が必要です。一方、ソウハチの1統当たり漁獲量は14トンで、平年の30%の漁獲に留まりました。また、ヤナギムシガレイの1統当たり漁獲量は17トンで、前年の91%に留まりました。

ケンサキイカ好調!

ケンサキイカの1統当たり漁獲量は61トンで、前漁期を19%、平年を20%上回り、前年と同様好調に推移し、水揚げ金額の面でも大きく貢献しました。一方、ヤリイカの1統当たり漁獲量は5トンで、依然低調に推移しました。

アンコウ、キダイ好調!

アナゴの1統当たり漁獲量は33トンで、前漁期を6.7%上回りましたが、平年を8%下回りました。アンコウの1統当たり漁獲量は40トンで、昭和56年以降最高の水揚げとなりました。また、キダイの1統当たり漁獲量は48トンで、前漁期を60%上回りアンコウと同様に、昭和56年以降最高の水揚げとなりました。

アカムツは解禁直後にまとまった漁獲があり、1統当たり漁獲量は13トンで、前漁期をやや上回りました。しかしながら、例年春先に見られる小型魚のまとまった漁獲が少なかったことから、今後の資源動向に注意が必要です。

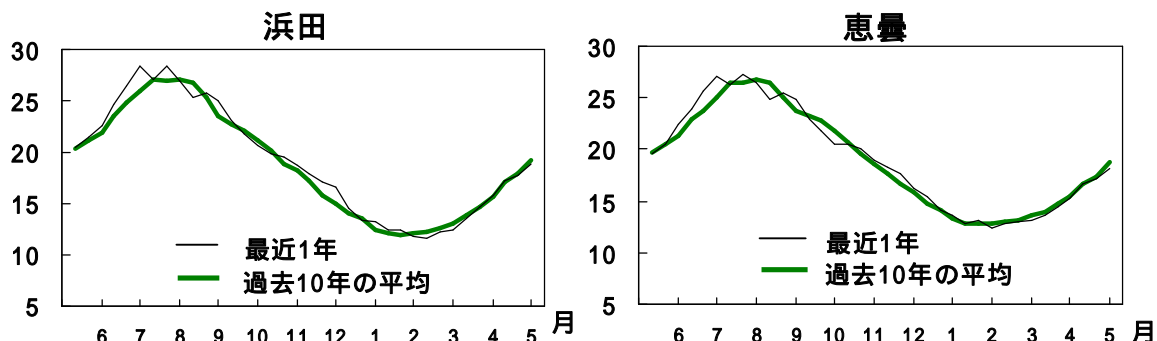
一方、ニギスは前漁期を9.8%下回る、20トンの水揚げとなりました。

《 5月の海況 》

5月	月平均	平年差	評価
浜田	18.0	0.1	平年並み
恵曇	17.4	-0.3	やや低め

沿岸の海水温は上昇を続けており、5月下旬には浜田・恵曇ともに18台になりました。4月に比べ浜田では3.3、恵曇では2.9の上昇となっています。

島根・鳥取・山口県の各水産試験場が5月23日～6月



2日にかけて行った海洋観測によると、各層の水温は、表層(0m)が12.4～20.7(平年差は-4.7～+0.4)、中層(50m)が6.5～18.0(平年差は-4.8～2.9)、底層(100m)が4.1～16.8(平年差は-3.8～+2.6)となっています。

島根県の沿岸域の水温は表層では17～19まで上昇してきましたが、平年よりは1程度低めとなっています。沖合でも表層は冷水域の影響で広い範囲にわたって例年より1～4程度低めとなっています。

中、底層では日御碕沖北西60マイル付近と隠岐島北方100マイル付近に冷水塊が見られます。特に日御碕沖北西60マイル付近の冷水塊の影響で中・低層では沖合は平年より3～4低めとなっています。ただし、隠岐島東方海域と北緯38度30分以上では平年より高めとなっています。

山陰沿岸海域の水温は、表層では「はなはだ低め～平年並み」、中層では「かなり低め～かなり高め」、底層では「かなり低め～やや高め」となっています。

《 5月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量は、マアジ主体に1,127トン、総水揚金額は1億1,433万円でした。1統当りの漁獲量は376トンで、平年(過去5年平均)の247%、前年の210%、同水揚金額は3,811万円で、平年の188%、前年の175%と好調でした。西郷では、マアジ主体に総漁獲量4,089トン、総水揚金額は2億5,682万円でした。1統当りの漁獲量は682トンで、平年の146%、前年の82%、同水揚金額は4,280万円で平年の146%、前年の114%となりました。浦郷はウルメ主体で、総漁獲量1,682トン、総水揚金額は1億1,397万円でした。1統当りの漁獲量は421トンで、平年の131%、前年の74%、同水揚金額は2,849万円で平年の117%、前年の100%でした。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、スルメイカを主体に53トンで、平年(過去5年平均)の49%、前年の64%と前月に引き続き低調でした。西郷のイカ釣船(5トン以上)の漁獲量も、スルメイカを主体に48トンで、平年の77%、前年の84%とやや低調でした。

【沖合底びき網漁業】

浜田港では1統当たり漁獲量で前年を8%下回り、金額はほぼ前年並みでした。漁獲の24%を占めたムシガレイは前年を74%上回り、平年も48%上回っています。イカ類ではケンサキイカは前年の57%、スルメイカは前年の105%の漁獲に留まりました。主な漁獲物はムシガレイ、スルメイカでした。

恵曇港では、1統当たり漁獲量は前年を3%、水揚金額は12%下回りました。カレイ類では、ムシガレイが量

で41%前年を上回りましたが、ヤナギムシガレイは量で26%前年を下回りました(1統当り)。主な漁獲物はムシガレイ、ヤナギムシガレイでした。

【小型底びき網漁業】

大田市漁協では、漁獲量で前年を12%上回りましたが、金額は前年並みでした。主な漁獲物はハタハタ、ソウハチ、ニギスで、ハタハタは前年の約9倍の漁獲量、ソウハチは前年の2.6倍の漁獲量がありました。

和江漁協では、漁獲量は前年の90%、水揚金額は92%に留まりました。ソウハチは量で前年の1.8倍の漁獲量がありました。またハタハタは前年の2.8倍の漁獲量がありました。ソウハチ、ハタハタが主に漁獲されています。

【定置網漁業】

県東部の漁獲量は、平年の161%、前年の137%と好調で、漁獲物は前月と同様にマアジとブリで全漁獲量の約半分を占めています。隠岐の漁獲量も県東部と同様に、平年の160%、前年の112%と比較的好調で、マアジが漁獲量の約5割を占めています。これに対し県西部の漁獲量は、操業統数の減少の影響等で平年の42%、前年の66%と低調に推移し、魚種はマアジが4割を占めています。

【釣・縄】

県東部の釣りの漁獲量は、平年の300%、前年の142%と好調な水揚げとなっており、漁獲量の約6割をブリが占めています。県西部の釣りは、漁獲量で平年の119%、前年の123%とやや好調に推移し、メダイとブリで漁獲量の半分以上を占めています。隠岐の釣りの漁獲量は、平年の123%、前年の91%で、メダイ、カサゴ・メバル類が漁獲物の約半分を占めています。延縄は県東部および県西部ではアマダイ、カサゴ・メバル類が、隠岐ではマダイ、カサゴ・メバル類が主な漁獲物となっています。

漁獲統計

平成17年5月1日～31日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	57	マアジ	19.8ト	1,127トン
	西郷	117	マアジ、ウルメイワシ	35.0ト	4,089トン
	浦郷	76	ウルメイワシ、マアジ	22.1ト	1,682トン
イカ釣り (5トン以上)	浜田	205	スルメイカ、ケンサキイカ	260kg	53ト
	西郷	354	スルメイカ	135kg	48ト
沖底	浜田	28	ムシガレイ、スルメイカ	10.4ト	291ト
	恵曇	20	ムシガレイ、ヤナギムシガレイ	Xト	Xト
小底	大田市	320	ソウハチ、ハタハタ	720Kg	230.3ト
	和江	412	ソウハチ、ハタハタ	621Kg	256.1ト
定置網	浜田	70	ケンサキイカ、アオリイカ、マアジ	439kg	31ト
	美保関	132	マアジ、ケンサキイカ、ブリ	576kg	76ト
	浦郷	91	ブリ、マアジ、クロマグロ	469kg	43ト
釣・縄	浜田	1280	ブリ、アマダイ、ヒラマサ、メダイ	22kg	28ト
	五十猛	276	アマダイ、カサゴ・メバル、マダイ	23kg	6ト

: 1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量÷延隻数・統数で算出しており、四捨五入した値です。

個人情報保護のため非公開